

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170400481		
法人名	有限会社夢家族		
事業所名	グループホーム夢家族・丸の内		
所在地	岐阜県羽島市竹鼻町丸の内2丁目13-5		
自己評価作成日	令和元年7月30日	評価結果市町村受理日	令和元年10月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kairgokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2170400481-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kairgokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2170400481-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和元年8月24日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームでの年間目標を「一人ひとりの気持ちに寄り添う介護」としました。職員間で利用者さんの個性、その時々々の心身の状態を情報共有しケアマネと協議しながらケアにつなげている</li> <li>・羽島市内の行事にはできるだけ参加して外の空気を満喫していただく</li> <li>・ホームでは作業療法ゲーム、体操などで脳活筋力アップをはかる</li> </ul>
---

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、利用者の残存機能を生かせるレクリエーションを取り入れながら、笑い声を絶やさない支援に取り組んでいる。また、地域の行事にも積極的に参加し、地域住民と交流している。本人・家族等のアンケートを実施し、事業所及び職員の対応や言葉使い、食事内容、意見や要望等の記入を依頼している。家族からの意見や要望を引き出し、運営に反映させるなどサービスの質の向上に取り組んでいる。代表者は、職員と同じ感覚を持ち、全てをオープンにしている。共に育ち運営していく姿勢で職員と接し、信頼関係を築きながら、「経費最小、ケア充実」の意識を共有している。</p>
--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目: 30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼、夕礼で利用者さんが物心両面の安心感をもって暮らして頂けるよう語り合っている。ご本人はもちろんのことご家族への支援につなげていきたい	玄関に理念を掲示し、職員に周知徹底している。ホーム理念「笑顔で寄り添い、心にゆとりを持ってあたたかい介護を目指す」が全職員の心得でもあり、誰もが安心して暮らせる社会の創造と貢献を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元で開催される行事には利用者さんを連れて積極的に参加している。地元のごみ当番の仲間に入れてもらい、事業所の仕事内容もお話して理解を得ている	地域の一員として「ごみ当番」を担いながら、認知症への理解が得られるよう、事業所の内容や役割等について説明している。また、近隣住民に、事業所主催の行事案内を配布して参加を得たり、地域行事には事業所から積極的に出かけ、交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して・行事の参加・誕生日外食・買物などで支援の方法を示している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には現状報告、行事報告、ヒヤリハット報告をして参加者からいただいた意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を隔月に開催し、地域代表、行政、民生委員、家族等が参加している。事業報告や今後の予定、利用者への支援状況、ヒヤリハット等を報告している。また、火災・水害訓練後の報告を行い、意見交換しながら助言を得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政には運営推進会議に毎回参加して頂いています。地域包括支援センターから頂いた情報で入所につながったケースもあります	運営推進会議で、担当者より地域高齢者の現状について報告を受け、事業所からも空き情報を伝えるなど、連携を密にしている。行政主催の会議にも積極的に参加し、現場の状況を伝え、学び得た知識をサービスにつなげている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの実践はすべての職員が理解をしています。以前はつなぎ服の利用者さんもいましたが身体状況を改善したことにより必要なくなりました	身体拘束等の適正化委員会を定期的に開催し、職員に周知徹底を図っている。やむを得ず拘束が必要な場合についても、職員間で意見交換し、拘束を回避できるようケア方法を工夫している。また、心の拘束、言葉の拘束による弊害を学び、話し合いながら、常に意識して対応するよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は虐待防止について研修を受けており職員も理解しています。職員は毎日思いやりの気持ちで利用者さんに接しています		

岐阜県 グループホーム夢家族・丸の内

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は権利擁護の研修を受けており成年後見制度の経験もあるので活用できるよう支援できる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は施設長がご家族に十分な説明をしています。改善の際は文章にして通達しています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の意見要望を聞くためアンケート調査を実施しました。接遇・食事など10項目ほど質問しおおむね満足頂いていました	利用者一人ひとりの暮らしぶりを記入した生活便りを送付し、家族の要望も聞いている。接遇、食事、環境、行事などについて、10項目の記入式アンケートを実施している。アンケートを分析し、今後の運営やケアに活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は管理者は個人面談を通して職員の意見要望を聞き取りそれを運営に反映させている	代表は、サービスの質は全従業員の物心両面の充実が不可欠であるとの姿勢で、経営内容を職員に公開している。また、利用者に質の良いケアを提供できるよう、常に職員と話し合う機会を持ち、風通しの良い関係作りに努めている。職員の定着率も良い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は主任会議、個人面談、筆記テスト、実施テストなどで個々の努力や実績を把握している。施設のリフォームをして設備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は筆記テスト、実施テストなどで個々の力量を把握している。地域包括の研修、初任者研修、管理者研修など受けさせている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は研修などを通して同業者と交流する機会を作り参考になることはミーティングの中で勉強会をしてサービスの向上につなげている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に自宅や病院へ面会に行きご本人に今困っている事、こうなりたいと思っていることに耳を傾けてサービスに取り入れています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族という中にも一緒に暮らしている家族と別々に暮らしている兄弟では不安や要望が違っていたりするので、そこをしっかりと確認しています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入の段階で本人が必要とすること家族が必要とすることが違うこともあるので確認。主治医で身体状況が改善しない時には専門医にもかかる		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者さんの能力の範囲内でやることはやります。利用者さんはそれを自分の仕事として張り切ってやっています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の今までの苦しみは十分に理解しお預かりすることで安心して暮らせるよう支援しますが、ご協力いただけることはこまめに連絡して本人との絆を保っています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの床屋さん、お墓参り、孫の絵画展、モーニングなど外出支援をして関係をつなげている	地域の様々な行事に参加し、馴染みの人に会う機会も多い。利用者の希望で、理容院、墓参り、公民館で催されるイベント等にも出かけている。近隣の喫茶店に出かけ、友人と出会うこともあり、馴染みの関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がテレビの前で好きな相撲の力士と一緒に応援したり、雑巾を縫う人をめぎらったり、カルタ取りで競ったりと微笑ましい光景が見られます		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	別の施設に移られる場合はご本人の心身の状況を相手方にお伝えします。病院へ転院の場合は移られた病院へ声をかけに行き今の状態を把握します		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別ケアを念頭に置き個別面談等で把握に努めています	職員は、常に笑顔で寄り添い、一人ひとりの思いや意向を把握するよう努めている。入浴介助の個別ケアでは、希望や悩みを聞ける機会でもあり、知り得た情報は職員間で共有している。本人本位の暮らし方を支援し、利用者が満足できるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回面談の際にご家族や利用されている介護サービスの担当者より聞き取り把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録申し送りノートスタッフからの聞き取り等で情報把握に努めています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングにおいてケースカンファレンスを行い意見やアイデア等を出し合っています	介護計画作成時には、家族の訪問時や電話の際に、意見や要望を聞いているが、今後は、家族にサービス担当者会議への参加を促し、家族同席の会議を目指している。介護記録を基に、ケースカンファレンスで関係者が十分に検討し介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録や申し送り等を活用し把握に努めています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別ケアということを中心に一人ひとりに必要と思われるサービスを行います。食事内容等、個別に変更するなどの対応を行っています		

岐阜県 グループホーム夢家族・丸の内

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお祭り「竹鼻まつり」藤まつりサマーフェスティバル等に出かけます。日常的に近所の公園へ散歩をします		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からなじみのかかりつけ医を希望された方は継続しています	入居時に、かかりつけ医について事業所の方針を説明し、利用者の半数以上が協力医を選択している。協力医は月2回の往診があり、継続医の往診も受けながら、適切な医療が受けられるよう支援している。	継続医、専門医への受診についての対応が明確でないため、事業所としての基本方針を検討中である。家族、利用者の理解を得て適切な受診対応ができるよう期待したい。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護に相談し医療へ情報提供して頂いています。利用者様の状態に気がかりな時は訪問看護師に相談しています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居時にはホームでの生活状況の情報提供を行っています。入院時・退院時には病院スタッフより情報提供を行っています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時にご家族より看取り等の希望を確認しています。終末期にはその都度、方針の確認を行います	契約時に、重度化や終末期についての事業所の指針を説明し同意を得ている。利用者の状態変化時には、早い段階で関係者が話し合いを行っている。看取り介護は、医師、看護師等の助言を受けながら支援を行い、学習会でも学びを重ねている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署より心肺蘇生の指導訓練を定期的に行っています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2階実施しています。消火器の使用法の指導も受けています	年2回の火災訓練は、夜間想定を含めて行っている。器具の取り扱い、避難誘導等、詳細に実施している。また、水害・地震について、緊急時の対応方法を話し合っている。備蓄の点検を行い、近隣の協力体制もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの個性とこだわりに合わせて声掛けや対応を職員間で共有して行っています	職員は、普段の生活支援の中で、利用者が認知症であることを意識することなく、本人ができないことを手伝うという姿勢で対応している。利用者が自分の存在が認められていると実感できるよう、場面作りを工夫し、誇りを損ねないよう対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	はっきりと希望が伝えられる人は対応しやすいですが、失語症の方やうつ傾向の方は難しいので表現やしぐさで把握するよう心掛けています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴日は決まっているものの利用者の気が向かなければ別の日にします。おやつ時間がきても寝ていたいときはそのようにしてもらっています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	高齢であっても乳液を朝夕つけたりネックレスをつけたりと自宅にいた時と同じようにしてもらっています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	肉魚は食べない人、柑橘系しか食べない人いるので合わせて配膳しています果物の皮むきや枝豆ちぎりなど協力してもらっています	近隣からの差し入れも多く、季節の野菜などを取り入れながら、職員が朝昼夕の三食を作っている。利用者の状態に合った形態、食事内容で提供し、完食出来るよう支援している。利用者も、下ごしらえ、配膳、後片付けなど、できることを手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全量摂取してくださる方が多いのですがお一人だけ食べない方が見えるのでエンシュアリキッドの補給と好きなゆで卵、かんきつ類をのせる事としています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で歯磨きができる人、介助が必要な人、と分けて口腔ケアを朝夕しています		

岐阜県 グループホーム夢家族・丸の内

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	2名の方は昼夜オムツですが、他の方はトイレの自立かトイレ介助でできるのでできるだけトイレで用を足すようにしています	トイレでの排泄が習慣になるよう、声掛けと誘導で支援している。トイレでの排泄が困難であった利用者も、職員の支援方法の工夫により、改善に繋がった利用者も多い。夜間は安全面に配慮して、ポータブルトイレやパッドで対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事には繊維質の多い野菜を取り入れ水分量もしっかりとってもらっています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが利用者さんのその時の気分や体調に合わせて曜日や時間を変更しています	入浴は、基本週2～3回であるが、利用者の体調や希望により、柔軟に対応している。職員は、入浴介助時に利用者とはコミュニケーションを図りながら、入浴を楽しめるよう支援に努めている。	長期利用者が多く、重度化が進むことで入浴が困難な場合もある。利用者の状態に合った快適な浴室環境作りが検討中とのことで、職員の負担軽減にも繋がるよう期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝の時間や就寝時間は自由です。部屋でテレビをゆっくり見る人とすぐに寝る人と様々です		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ミーティングの時間を利用して利用者一人一人がどんな病気でどんな薬を服用しているか勉強会を行いました		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌の好きな人は歌謡曲のDVDと一緒に歌っています。雑巾縫いに夢中の人、サミットへ髪に行く人、モーニングの好きな人と様々な支援を行っています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	桜、藤、ヒマワリ、コスモス、カラオケ、花見の後のコーヒーが楽しみな人、カラオケの後の食事が好きな人一年を通して外出支援をしています	日常は近隣を散歩したり、市民の森にも出かけている。利用者が他の人の車いすを押すなど、利用者同士でいたり、励まし合う光景も見られる。喫茶店、カラオケ店、外食などに出かけ、外出を楽しめるよう工夫している。	



岐阜県 グループホーム夢家族・丸の内

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことは自由ですが現在持っている方はいません。買い物の要望があるときは家族の了解をもらい本人を買い物に連れていく支援をしています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書くのが趣味の利用者さんが1年中たくさん手紙を家族にあてて書くので届けています。時には職員にももらいます		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前には季節の花のプランターをならべテーブルには畑から持ってきた花で女性には喜んでもらっています。音を気にする利用者さんにはテレビの音のボリュームをしぼり光を気にする方は光を遮るカーテンをします	窓越しに子どもの声が聴こえたり、住民の日常生活が伝わってくるなど、住宅地ならではのホームである。リビングは明るく、広い廊下は車椅子の利用者が安心して往来ができる。利用者の書道作品や行事の写真を飾り、落ち着ける雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	歌や相撲の好きな2人の利用者さんにはテレビの前の場所にいすを並べ楽しんでもらえるようにしています。それほど会話しない人には一人で静かに過ごしてもらいます		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	娘さんのパッチワークが飾ってある部屋、ご主人とスヌーピーが並んでいる部屋、マンガ好きでのれんがアンパンマンの人、個性的な部屋作りになっています	各居室の表札は、昔ながらの木製を利用し、好みの暖簾をかけている。利用者や家族が、広く安全に使えるよう配置を工夫し、本人好みの思い出の小物を並べて、居心地よく生活をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	使用済みのリハビリパンツを部屋の近くのごみ袋に捨てに来る人、廊下の手すり運動する人、電気カミソリを廊下で充電する人、それぞれの動きを見守っています		